

**第26号科学衛星(ASTRO-H)
プロジェクトの事前評価
評価票ご意見に対する説明**

平成20年8月26日
宇宙航空研究開発機構

[4-1] TWG組織化のタイミング

【委員コメント】

TWGを組織化することのこと、いつの段階で参画するのか。

【JAXA回答】

TWGの委員としてアドバイザーを引き受けてくださる国内外の専門家の選考作業を、それぞれのミッション機器の責任者、およびNASAの共同研究者との間で現在進めており、開発研究に移行した後、すみやかに組織する予定となっております。

【本資料の位置付け】

本資料は、平成20年7月25日に開催された第8回推進部会および平成20年8月7日に開催された第9回推進部会における第26号科学衛星(ASTRO-H)プロジェクトの説明に対する構成員からいただいたご意見に対し、独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)から説明が必要と事務局が判断されたものについてJAXAから追加の説明をまとめたものである。

評価項目4(その他)に関連する質問

4-1	TWG組織化のタイミング	3ページ
4-2	リスク対応について	4ページ

【4-2】リスク対応について

【委員コメント】

問題が起きた時のリスク管理で一番重要なことは、実は「スピード」である。いつでもすぐに対処、対応できる組織のインフラとリーダーの意識が育っているのか。

【JAXA回答】

ASTRO-Hプロジェクトでは、これまでの衛星実験ばかりではなく、ロケット実験、大気球実験、地上大型実験と、問題が発生したときに、迅速な判断と対応を要求されるプロジェクトを率いてきた者が、プロジェクトマネージャーや各機器の責任者として任ぜられています。また、これらの人材のうち、さらに鍵となる人材については、海外の研究機関における国際共同実験に長年参加した経験を有しており、また、JAXAの科学衛星等においても問題解決のタイガーチームとして活動した経験を有するため、リスク管理に関しては極めて鋭敏な感覚と意識、さらに経験を持っています。プロジェクトのリスク管理においては、常日頃から、「危機意識」をプロジェクト内で共有し、リスク認識の感覚を各員が磨くことが大切です。開発の過程でおこる様々な事象のうち、『問題』を選別し、適切な経路で迅速に展開する事が必要であると認識しており、そのための日頃の情報共有や情報伝達経路の整備などに心を配っています。本プロジェクトは大学共同利用プロジェクトであり、各大学が参加するものです。上述の危機意識の共有、および情報共有のため、宇宙科学研究本部においてミッション機器それぞれについて担当を定義しています。また、科学衛星で従前より行われてきた「設計会議」では、バス機器、ミッション機器の担当メーカーや大学・研究機関が一堂に会して進行状況、課題を議論し、お互いに齟

齟がないか、必要に応じて設計などに反映させる必要がないかをその場で議論し、確認します。この「設計会議」を2、3ヶ月に一度行うことで、問題解決が後手にまわらないようにします。このように、「みんなで全体を意識しながら作り上げる」という精神を忘れないように開発を進める方針です。